

# 豊かな関わりを通して、互いに育ち合い、読書への意欲を高めた麻っ子の育成を目指した事例

学校名 熊谷市立大麻生小学校  
所在地 熊谷市大麻生51番地  
電話 048-532-3518

## 1 本校の概要

本校は、明治13年に開校し、今年で145年を迎える、児童250名、13学級（特別支援学級2学級を含む）の歴史と伝統ある学校である。熊谷市の西部に位置し、豊かな自然に恵まれており、保護者・地域の方々と共に、素直で心豊かな児童の育成に努めている。

## 2 本校の実践

### (1) 実践の視点

- ・ a 読書に親しむ態度や読書習慣に係る取組
- ・ f 言語活動の充実など学力向上に結び付けた取組

### (2) 実践の概要

全校児童の読書意欲を高め、豊かな心情と幅広い知識を身につけさせるために、以下の実践を行った。

#### ア 日頃から本に親しむ取組

- ・ 週に一回読書タイムを設置し、本に親しむ環境づくりを行っている。
- ・ 読書貯金カードを利用し、目に見える形で読書欲がわくようにしている。

#### イ 実りの秋読書月間の取組(10月下旬～11月下旬)

##### ・ 図書委員の読み聞かせ

図書委員が担当クラスに行き、読み聞かせを実施した。

##### ・ 読書感想文の紹介

読書感想文コンクールに入選した児童の作品を給食の時間に放送して児童に紹介している。

##### ・ 読書のしおり、読書標語作り

好きな本の感想と絵（1～3年生）、本、読書に関する標語（4～6年生）をかき、各クラス2点提出とし、図書室横の掲示板に掲示した。



##### ・ 縦割り班読み聞かせ

異学年での読書を通じた交流を図るため、縦割り遊びの時間に6年生が縦割り班の班員に読み聞かせを行う。

##### ・ 「実りの秋読書月間」の木の掲示

図書室横の掲示板に学校として「読書の木」の掲示を用意し、低学年は2冊ごと、高学年は1冊ごとに1枚、読んだ本の題名を書いた葉のカードを掲示した。



#### ウ 図書館補助員との連携

##### ・ 図書館補助員の読み聞かせ

各学年に応じた本を選び、図書館補助員が読み聞かせを行った。また、図書館補助員が窓口となり、地域のイラストレーターの方のライブドローイングと読み聞かせを行った。



## 3 成果と今後の課題

### (1) 成果

ア 全校で朝の読書タイムを設けることで、読書の習慣化を図ることができた。図書委員の読み聞かせや縦割り班での読み聞かせを通し、様々な本にふれることができ、児童の読書への関心を高めることができた。

イ 読書月間にさまざまな取組を行うことができた。今までふれたことのない本にもふれることができた。

### (2) 課題

ア 子供たちの読書欲を向上させるように、様々なジャンルの本の充実に努めていく。

イ 業間休みと昼休みに図書委員が貸し出しを行っているが、年間で借りる量に差があるため、多くの本に触れることができるような工夫が必要である。

ウ 家庭での読書量が増やせるような工夫が必要である。

### (3) おわりに

今後も、さらなる読書の習慣化を図ったり、図書室の利用率を高めたりする工夫をしていきたい。